

2014年8月25日

原子力規制委員会
福島第一原子力規制事務所
統括原子力保安検査官 様

原発いらない福島の人たち

2011年3月11日東京電力福島第一原発事故以来、福島県民はまるで見えない縄のようなもので手足を縛られ口を塞がれているようです。声をあげれば即、畳みかけられるような、すさまじい程のマスコミを使っての「風評被害」「放射線についての正しい知識」等の連呼—— 何故そんなに必死なのでしょうか——。

民主主義の国家なのですから自由な発言があってもいいのではないのでしょうか？国民一人一人が判断することです。多くの福島県民は声を上げたくても上げられない状態に置かれています。地域の分断・家族の分断、汚染水問題、焼却炉問題、子どもたちの甲状腺ガンの多発、その他の病気の増加等、時間の経過とともに問題は複雑化して大きく膨らんでいます。

福島第一原発事故は終わっていません。そんな中での鹿児島島の川内原発の再稼働申請、審査などありえません。昨今の異常気象による自然災害、地震、それに加えて火山噴火の可能性が大いにあり、どう考えても考えても現在のこの日本の状況を鑑みて、再稼働など正気の沙汰ではないです。

規制委員会のみなさん、この国をどうしたいのですか？これからの子どもたち、若い人たちの責任をとれますか？世界の国々に責任をとれますか？多くの国民はもし万が一再稼働になり、また事故が起きたらもう日本は終わりだと思っていると思います。どうかこれからの子どもたち若い人たちのために、これ以上日本を、いいえ地球を汚染させないでください。英知ある世界に誇れる決断をしてください。それが被爆国として、福島第一原発事故を起こした日本国としての責務だと思っています。